

地域で安心して医療を受けられる環境づくり

症状に応じた受診に向けた
スウェーデン・フランスの取組

スウェーデンの急性期医療体制

- ▶ スウェーデンの急性期医療体制は5段階に分かれ、患者がそれぞれ適切な段階の医療を受けられるよう、1177ケアガイドが各機関と連携し振り分けを行っている。

連携・紹介



1177ケアガイド(医療相談コールセンター)

- ・病気やけがの際の相談窓口(緊急の場合は救急番号112)

初期医療センター

- ・受診を要する患者の最初の窓口となり、必要に応じて高次の医療機関へ紹介

地域救急機関

- ・大学病院等の救急窓口に行くほどではないが、緊急に処置が必要な患者の窓口

大学病院等の救急窓口

- ・高度先進的な医療を提供する広域医療圏病院

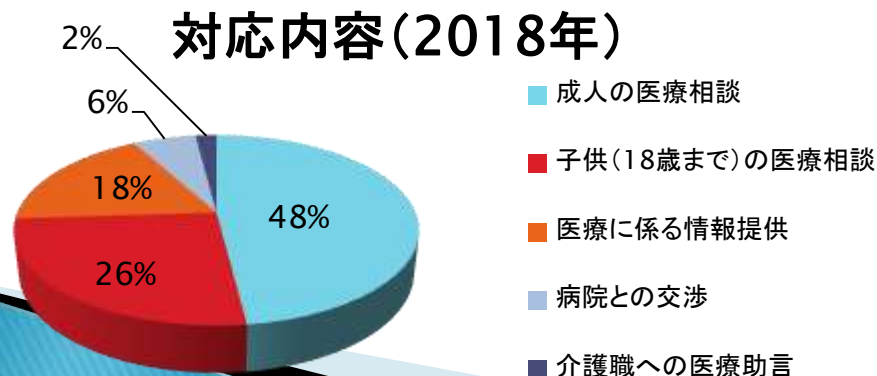
高度医療救急(救急集中治療科)

- ・大きな外傷による救急搬送やヘリ搬送等、特に重篤な患者に対応

1177ケアガイドの概要

1177
VÅRDGUIDEN

- ▶ 各県ごとに委託により運営されている医療相談コールセンター。最低5年の経験を持つ正看護師が対応する。
- ▶ 救急搬送・医師の派遣・医療機関受診の必要性の判断や、初期医療センター等の予約のほか、軽症患者への自宅ケアのアドバイス、疾病に関する情報提供等を行う。
- ▶ 長年の実績に加え、普及啓発キャンペーンの結果、1177の認知率は98%にのぼる。ストックホルム県では、救急要請の前にまず1177に電話をかけるよう促している。



5段階のうち適切な段階の医療にかかるよう普及啓発するための地下鉄構内キャンペーン広告!



フランスの救急医療体制

日本での119番に相当する番号はSAMU(15番)または消防局(18番)であり、どちらかに電話をかけるとオペレーターにより適切な機関等に振り分けられる。SAMUでは、医師のトリアージにより、症状に応じて5段階の対応が取られる。

緊急性高

連携

SAMU social:115番

路上生活者等、社会的問題を抱える患者に対応。

SAMU(MICU):15番

医療機器、薬剤を搭載したMICU車両により医師、看護師等が出動し、処置を行いながら医療機関へ搬送。

消防局救急車:18番

主に総合診療医での対応が難しい外傷等の場合に出動。医師は同乗しない。

民間医療搬送車

医療タクシーとして有料(保険適用)で利用できる民間搬送サービスを案内。

SOSメドサン(往診)

往診を希望する患者に、24時間365日対応の民間往診サービスを案内。

自宅での処置アドバイス

受診の必要がない場合、コールセンター常駐医師により処置のアドバイスを行う。

SOSメドサン



- ▶ 1966年創設の非営利民間往診サービス。パリ市内では年間28万人の患者に180人の医師で対応。
- ▶ 往診中の医師の位置情報をリアルタイムで把握し、往診依頼のあった患者宅付近にいる医師を24時間365日派遣する。
- ▶ 登録医師から運営費(コールセンター経費等)を拠出し、診療報酬は往診した医師の報酬となる。フランスではかかりつけ医を通さない場合は原則自己負担7割だが、SOSメドサンの往診は救急扱いとなり自己負担3割となる場合が多い。
- ▶ SAMUと連携して軽症患者に対応するほか、保健省に対し1日の業務報告を行う義務を負うなど、その歴史の古さから国の医療システムにも組み込まれている。



往診用の車両→